

まも歩きに発見！ 町家・町なみ豆知識

町家・町なみの基本的な用語を解説しています。まも歩きの時、地図を見ながら参照していただくと役に立ちます。

「虫籠窓(むしかご)」



その形状が虫籠（むしかご）に似ていることから名付けられたとも言われている。漆塗で塗り込められているものも多く、その形状も四角のものもあれば、角が丸まっている木瓜形（もっつがた）のものもある。

「格子」



棧の板（かまこ）と縦横に組んだ格子（くもご）で構成され、格子の幅の広い・狭いなど、多くのデザインがある。建物内部への採光と通風を確保しつつ、外部からの進入と視界を制限できる効果がある。

「駒寄(こまよせ)」「矢来(やらい)」



町家に多く用いられている「格子」は、正面から顔と近づけばおぼろげに見えてしまうため、これを避けるための見止めとして設けられている。

「印建(うだつ)」「袖建」



本木、障子からの隙間を目的づけられるものだが、中には、装飾的な意味合いが強いものもあり、瓦のせたデザイン(うだつ)も見られる。

「箱軒(はこきさ)」



2階の軒下を箱状にし、防火のために耐火で覆ったもの。

「つし(扇子)二階」

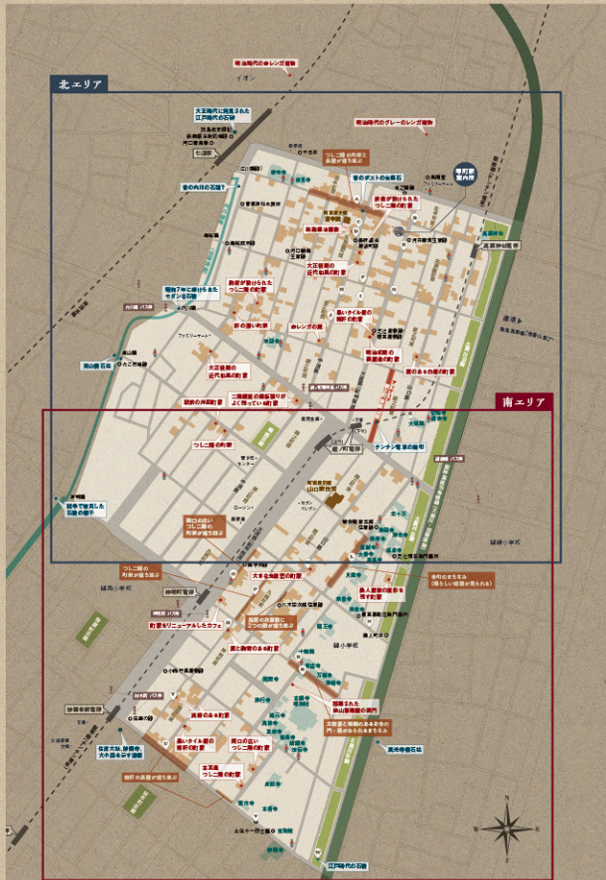


主に江戸から明治にかけて建てられた古い様式で、中二階が高くくなり、二階が原いとして使われている。時代の流れで、建物が塗り込められたものが多いが、漆塗でなく、ガラスの窓に変わっている様子が見受けられる。

「籠二階(高二階)」



主に江戸から明治にかけて建てられた古い様式で、中二階が高くくなり、二階が原いとして使われている。時代の流れで、建物が塗り込められたものが多いが、漆塗でなく、ガラスの窓に変わっている様子が見受けられる。



MAKINAMI WALKING MAP

区画整理事業推進

「まも歩き」を油断なく

堺屋漆都市北部地区について

自由都市、自治都市として名高い中世の堺町(中世の堺漆都市)は、江戸時代初めの1615年(慶長20年・元和元年)、大坂夏の陣の際に、豊臣方の焼き討ちにより灰燼に帰しました。そして、その後、堺は徳川幕府の直轄領となり、新たに三方に藩(いっせいの土屋川)が限られ、基督教の街路や短冊形の町区画も整備されて(元和の町割り)、新しい近世の堺漆都市に生まれ変わりました。この近世の堺漆都市は、その後、近代へと引き継がれて来ましたが、1945年(昭和20年)、第2次世界大戦時の爆撃空襲のため、大部分が焼失しました。しかし、その北部地区は、幸運にも戦火を免れたため、現在も江戸時代から戦前に建てられた町家などの貴重な歴史的建造物が多く残されています。

——堺屋漆都市北部地区町なみ再生協議会とは——  
この地区の江戸時代から続く貴重な歴史的町なみを保存・再生・活用するために設立された民間の団体で、堺町と協力しながら、「江戸時代の町割り」を踏かした風情(む)をほくくまちなみ」を標語として活動しています。

このマップについて

このマップは、町家や町なみを見て歩くための地図です。そのため普通の地図とはひと味違います。町家や町なみを楽しむためのヒントや視点を提供します。さあ、みなさん、一緒にまも歩きましょう！

地区の南エリアの案内には、多くの寺が建ち並んで寺町を形成しており、北エリアとは異なる落ち着いた雰囲気を感じ出しています。町家だけでなく、古いお寺の建物やまちなみも大きな見所です。

